

〔原 著〕

問題解決に取り組んでいる家族を支援する看護援助

星川 理恵¹⁾ 長戸 和子²⁾ 野嶋佐由美²⁾

要 旨

本研究では、問題解決に取り組んでいる家族を看護師がどのように支援しているかを明らかにすることを目的とした。看護者経験年数5年以上で、家族看護に関心のある看護者を対象に、半構成的面接を行った。質的帰納的アプローチによる因子探索型の研究デザインを用いた。

その結果として、問題解決に取り組んでいる家族を支援する看護援助が抽出された。看護者は、【家族を保護する支援】【家族の絆を強化する支援】【家族の現実認識を促す支援】【家族に問題解決にチャレンジさせる支援】【家族の実行を促す支援】【家族に人とモノをつなぐ支援】を多彩に組み合わせることで、問題解決に取り組んでいる家族を支援していることが明らかになった。

本研究の成果から、『家族のエネルギーを補い準備を整える支援方略』『家族の問題解決力を強化する支援方略』、そして『家族外の資源を導入する支援方略』の3つの支援方略を提案することもできた。

キーワード：家族看護，問題解決，看護介入

1. はじめに

家族がもつ問題解決力を尊重し、家族が主体的に問題解決に取り組み、その問題解決を支援する看護を開発していくことが必要である。家族が家族員の健康問題に関連して取り組まなければならない課題には、治療の選択や病名・病状の告知にかかわる課題など様々である。生活体としての家族の変化を視野に入れた生活調整や家族関係の調整、社会資源の活用、さらには在宅での病氣管理など様々な課題への取り組みも余儀なくされる。そのため家族が問題解決に取り組んでいる力を育成する看護援助の必要性は高いと考えられる。

心理学領域においてZurilaは、「問題解決」とは、人がある特定の問題に対する解決策や効果的な対処反応を識別し発見する認知-感情-行動プロセスとし、①問題提起、②問題の明確化と定式化、③代替

可能な解決策の産出、④意思決定、⑤解決策の実施と検証の5つの段階を経ることを述べている¹⁾。看護管理分野でも、問題解決については「問題を明確にして情報収集する、それを評価・解釈する、解決策を立て、選択し実行するというプロセスを辿ること」と、プロセスに焦点をあてて報告している²⁾。

家族看護学領域でも、家族の問題解決について注目されている。例えば、家族エンパワーメントモデルでは、「問題解決能力」として、ストレス状況下で問題を見極め、分析的な思考を用いて現実的な問題解決を行っていく力、家族の勢力構造、役割関係、役割ルールなどを状況に適合させて変化させることができる能力と述べている³⁾。構成要素には、《今までの問題に対する適応力》《認知能力》《知的な力》《現実を認識し検討していく力》《現実的な目標設定》《計画を立てていく力》《意思決定能力の程度》をあげている。また、家族生活力量モデル⁴⁾においても、〈健康問題対処力〉として位置づけ、〈理解力〉《情報収集》《判断力》《健康問題の受けとめ方》《コンプライアンス》《家庭内の問題共

1) 高知大学医学部付属病院

2) 高知女子大学看護学部

有力》《結束力》をあげている。

鈴木・渡辺のモデルでは、家族の問題解決力を健康問題が家族に与える精神的・情緒的・経済的・家族の日常生活面への影響に対処し、問題を解決していく能力と捉えている⁵⁾。そして、それらを構成する要素として、《健康問題を早期に発見する能力》《健康に関する判断能力》《問題解決のための意欲を相互に高め合う能力》《問題解決のための行動力》の4点をあげている。以上のように、家族看護学領域でも、家族が健康に関する諸問題を解決する過程や方法、能力などに注目し、家族による問題解決に関する関心は高まっているものの、家族の問題解決に関する研究報告は少なく、現時点はまだ創設期である。看護の支援方法としては、2009年には「家族の問題解決行動を促すためのかわり」⁶⁾が報告されている。

本研究において、問題解決に取り組んでいる家族を看護者がどのように支援しているかという現状を把握し、今後の看護援助の方向性を見出すことを目指す。家族のヘルスケア機能の低下が指摘される現代社会において、問題解決に取り組んでいる家族を支援する看護援助は、家族の潜在的力を開花させ、家族をエンパワーメントすることになる。また本研究の成果により、具体的な看護介入方法の開発につながることができ、結果として、健康観や健康行動を伝承している家族を通して、家族成員一人ひとりの健康の増進と維持を目指して、適切な保健行動をとることができるように支援し、結果として第一次予防から第三次までの根幹形成となる。

II. 用語の定義

本研究では、既存の社会学・経営学領域の文献及び看護学・家族看護学の文献を参考にして、以下のように捉えた。本研究は質的研究であり、用語の定義は研究の理論的背景・文脈として位置づける。

問題解決については、Zurila¹⁾の考えに基づいて、ある特定の問題に対する解決策や効果的な対処反応

を識別し発見する認知-感情-行動プロセスであるとし、家族による問題解決を、「家族員の健康問題に関連して取り組まなければならない課題に対して、家族が家族内・外の資源を活用しながら、現実的な生活の中で、目的達成に向かって、実現可能な方策を判断し実行して家族生活を安定させていくこと」とし、問題解決に取り組んでいる家族を支援する看護は、「問題解決に取り組んでいる家族に対して、家族全体が主体的に取り組み、家族としての対応ができるように直接的・間接的にかかわること」とした。

III. 研究目的

本研究は、問題解決に取り組んでいる家族に対して、看護者がどのような支援をしているかを明らかにすることを目的とする。

IV. 研究方法と対象

1. 研究デザイン

本研究は、質的帰納的研究デザインである。

2. 対象者

保健医療福祉機関で働く看護者経験年数5年以上の看護者で、家族看護に関心のある看護者、約1時間程度の面接を行うことができる看護者を対象とした。対象者の確保は、家族看護に関する研修に参加している看護者に呼びかけ、研究参加への賛同が得られた方に連絡をとり研究依頼し、その所属施設に対しても承諾を得た上で、研究への同意の得られた看護者を研究対象とした。

3. データ収集方法

問題解決に取り組んでいる家族に対して、看護者がどのような支援を行ったかに関する半構成的インタビューを行い、データ収集を行った。「家族はどのように問題に直面していましたか」「家族は問題解決にどのように取り組んでいましたか」「家族に対してどのような支援を行っていましたか」などに

ついて問う面接を行った。半構成的インタビューガイドの妥当性の検討と、面接技術及びデータ分析の信頼性確保のために、4回のプレテストを実施してインタビューガイドの洗練化を行った。データ収集は平成19年6月から11月であった。

4. データ分析方法

本研究では、得られたデータは、まず事例ごとにコード化し、その後、事例を越えて類似または共通のコードを分類してカテゴリー化した。抽出したデータを整理し、類似した内容を集めて小カテゴリー名をつけ、類似した内容の小カテゴリーを集めて中カテゴリー名をつけ、さらに類似した内容の中カテゴリーを集めてカテゴリーとした。以下、カテゴリーを【 】, 中カテゴリーを<>で示した。

5. 倫理的配慮

本研究を行うにあたり、高知女子大学看護研究倫理審査委員会の承認を受け、研究対象者の自由意志を尊重し、データへの配慮、看護師、患者・家族の匿名性を守ることへの配慮を行い実施した。

対象者への説明として、研究目的の説明と同意、データは研究以外に使用しないこと、プライバシーの厳守、拒否しても不利益がないこと、MDに録音することなどを説明し理解を得た。また、学会などで公表することについても同意を得た。

V. 結果

1. 対象者の概要

対象者は11名であり、施設内看護師7名、訪問看護師4名であった。臨床経験年数別では、7年が3名、13年が2名、17年1名、18年1名、21年2名、22年1名、25年が1名の内訳で、平均経験年数は15.5年であった。

2. 問題解決に取り組んでいる家族に対する看護援助

問題解決に取り組んでいる家族に対する支援

として、【家族を保護する支援】【家族の絆を強化する支援】【家族の現実認識を促す支援】【家族に問題解決にチャレンジさせる支援】【家族の実行を促す支援】【家族に人とモノをつなぐ支援】の6つ支援方法を抽出した。(表1)。

1) 家族を保護する支援

【家族を保護する支援】とは、[家族に関心を向けて、意図的にかかわる機会をつくり、家族の立場や意向を保護しながら、問題解決に向かえるようにする支援]であり、<機会をつくる><ありのまま受け止める><添う><病気の家族員を守る><家族の立場を保証する><弱者を守る><限界を越えさせない>が含まれていた。

例えば「できたことはできたと認める、ちゃんと

表1. 問題解決に取り組んでいる家族を支援する看護援助

カテゴリー	中カテゴリー
家族を保護する支援	機会をつくる
	ありのまま受け止める
	添う
	病気の家族員を守る
	家族の立場を保証する
	弱者を守る
家族の絆を強化する支援	限界を越えさせない
	家族内で肯定的な相互交流を促す
	家族の相互理解を深める
	家族の協力態勢を強化する
家族の現実認識を促す支援	家族に参加させる
	具体的にイメージさせる
	問題を明確にする
	療養に関することを教える
家族に問題解決にチャレンジさせる支援	差異を調整する
	家族の認識を広げる
	段取る
	準備性を高める
	優先順位をつけてかかわる
	段階的に促す
家族の実行を促す支援	直面化させる
	強く押す
	実行できるようにかかわる
家族に人とモノをつなぐ支援	家族の対処行動を強化する
	バックアップする
	社会資源を活用する
	ケア体制を構築する

フィードバックを返すようにしていた。できなかったこと、残された課題は一緒に解決すべき、私たちの問題」(Case 8)と、看護師は、家族が自らの課題に気づき前向きに取り組めるように、家族を追い詰めないようにしながら、家族の現状をくありのまま受け止めながら関わっていた。

また「お母さんに疲れが見えたときには、自分でわかっていなくても休んでもらわなきゃいけないし、介護が続くためには、お母さんの体調管理が必要とか、そういうことをみんなで言ったり、注意喚起みたいにしていった」(Case 11)と、看護師は、家族の力を消耗させないように「限界を越えさせない」かかわりをし、家族を守っていた。

2) 家族の絆を強化する支援

【家族の絆を強化する支援】とは、[家族の肯定的な相互交流を促し、家族の相互理解を深めて親密さを強化させ、問題解決に向かえるようにする支援]であり、<家族内で肯定的な相互交流を促す><家族の相互理解を深める><家族の協力態勢を強化する><家族に参加させる>が含まれていた。

例えば、「お父さんが『妻が元気ないような気がするけど、そんな気持ちを聞くのはやっぱり僕ですか?』って言ってきて、お母さんに『今日どう?』ってことをもっと聞いてあげて、もっと話したらええと思うよ」(case 9)と伝えて、<家族の相互理解を深める>、家族が自ら問題解決の行動をとるよう支援していた。また、「お父さんを見て、お父さんにも参加してもらえるように」(Case 10)と、<家族に参加させる>ことで、家族全体で問題に取り組んでいくことができるように支援していた。

3) 家族の現実認識を促す支援

【家族の現実認識を促す支援】とは、[家族なりの判断ができるように家族の認識を広げ、問題解決に向かえるようにする支援]であり、<具体的にイメージさせる><問題を明確にする><療養に関することを教える><差異を調整する><家族の認識を広げる>が含まれていた。

例えば、「お家に帰ってからいきなりやってでき

なかったら困ると思ったので、一緒にやったんですけど、そしたらやっぱり、なかなか私一人では難しいっていうのは実感されたみたいで」(Case 5)と、医療処置や介護方法について家族なりに「具体的にイメージさせる」ことで今後に起こり得る課題を認識し取り組んでいけるようにしていた。また、「後々起こってくるだろうなって思うことをこちらから、ちょっと言って、どうやっていくかを一緒に考えていく計画を立てるような形にしていきました」と、<問題を明確にする>ことで、家族が問題解決に向かえるようにしていた。

4) 家族に問題解決にチャレンジさせる支援

【家族に問題解決にチャレンジさせる支援】とは、[家族に対して多角的に策を練って家族が段階的に問題に取り組めるように支え、問題解決に向かえるようにする支援]であり、<段取る><準備性を高める><優先順位をつけてかかわる><段階的に促す><直面化させる><強く押す>が含まれていた。

例えば、「たくさんの方論を提示することでかえって混乱させるよりは、まずひとつの手順をきちんと守ってもらう中で、その負担をみながら、実体験を積み重ね、それを成功体験にして…」(Case 8)と、<段階的に促す>策を練って、取り組みを支え続けるようにしていた。また、「最後は、介護者さんの次女さん自身がつぶれてしまうと思ったから、もう、次女さんのその気持ちは置いておいて強く言っていましたね」(Case 2)と、家族に直接的に「強く押し」ながら、問題解決に向かえるように支援をしていた。

5) 家族の実行を促す支援

【家族の実行を促す支援】とは、[家族が生活の中で獲得した知識と技術を確実に実行し継続でき、問題解決に向かえるようにする支援]であり、<実行できるようにかかわる><家族の対処行動を強化する><バックアップする>が含まれていた。

「お母さんは、すごく単純なことはできるようになったから、(中略)(ミルクを)160cc作るよ。じゃあ、今度は8杯なんだよっていう教え方をしたら、

ちゃんと着実にできるから」(Case1)と、ミルクの調合に困難を抱く母親に対して、その母親に合った教え方を行い、退院後に取り組んでいかなければならない問題解決に向けて、家族が確実に<実行できるようにかかわる>支援を行っていた。

また、「お母さんが混乱するかなあっていうのがあるので、今はちょっと目をつぶって黙って、お母さんのやり方を私たちが合わせてやっていって、待とうって思っている」(Case10)と、家族の行動を認め、継続的に<バックアップする>ようにして、問題解決に取り組んでいる家族を支援していた。

6) 家族に人とモノをつなぐ支援

【家族に人とモノをつなぐ支援】とは、[家族に社会資源を有効に活用させ、家族と協働のもとにケア体制を構築し、問題解決に向かえるようにする支援]であり、<社会資源を活用する><ケア体制を構築する>が含まれていた。

「お母さんが、本当にピカピカに磨き上げている、きれいな寝たきりの方だったんですけど、そういう状態でおれるためには、どうするかを相談して、お母さんとケアマネさんと決めていって、そのサービス調整はみんなですていった」(Case11)と、家族が在宅療養の問題に取り組めるように<社会資源を活用>していた。また「緊急に対応できる方法として、本人がその技術を身につけるか、あるいは緊急で対応できる訪問看護師さんをお呼びか、救急車を呼ぶか、そういうネットワークを、いくつかつくってから退院して」(Case8)と、家族のペースで問題解決に向かえるよう<ケア体制を構築する>ようにしていた。

VI. 考 察

本研究では、問題解決に取り組んでいる家族を支援している看護者は、【家族を保護する支援】【家族の絆を強化する支援】【家族の現実認識を促す支援】【家族に問題解決にチャレンジさせる支援】【家族の実行を促す支援】【家族に人とモノをつな

ぐ支援】を多彩に組み合わせることで、問題解決に取り組んでいる家族を支援していることが明らかになった。

本研究では問題解決のプロセスの側面でこれらの6つの支援方法がどのように関連しているかを明らかにするには至っていない。しかしながら、本研究の成果としては、『家族のエネルギーを補い準備を整える支援方略』『家族の問題解決力を強化する支援方略』、そして『家族外の資源を導入する支援方略』の3つの支援方略を抽出することができた。

1) 家族のエネルギーを補い準備を整える支援方略

問題解決に取り組んでいる家族に対して、看護者は、【家族を保護する支援】【家族の絆を強化する支援】を行い、家族が問題に直面し解決に向かうことができるように、家族のエネルギーを強化し、家族が問題解決に向かう後押し、準備を整える支援を行っていた。

本研究において、看護者は、意図的に機会をつくることで思いをありのままに受け止め、添い、保証しながら【家族を保護する支援】を行っていた。カーカフ⁷⁾は、このような援助は、対象者を鼓舞する重要な援助になると述べている⁸⁾ように、問題解決に向けて、家族が鼓舞し行動を起こしていく基盤づくりになっていると思われる。

看護者は【家族の絆を強化する支援】にて、家族が問題解決に参加するように、協力体制をつくりつつ、問題解決に向かう家族の力をより強化させていた。鈴木・渡辺のモデル⁹⁾の中では、家族には「問題解決のための意欲を相互に高め合う能力」が必要であると指摘しているが、本研究の成果からすると、看護者はそのために【家族の絆を強化する支援】を行っていることが判明したこととなる。

また、看護師が家族なりの変化のスピードと家族が発信するサインを見逃さず、多角的に策を練って家族の問題解決に向けての内的な準備を高め、家族に問題解決へチャレンジをさせる支援を行っていた。小林⁸⁾は、変化を促進していくことは看護師の責務であり、看護師が一方向的に家族を変化させようとす

るのではなく、家族が自ら変わるように条件を整えるよう支援していくことが重要であると述べているように、本研究の対象者は、家族の状況に合わせて、優先順位をつけたり、段階的に促し、直面化させるなど、個々の家族のペースにあわせてバリエーションをもって家族が自らチャレンジしていくことができるよう支えていた。

風間⁶⁾は、母親の問題解決行動を促す関わりとして、「まるごと認める」「しょっちゅうそばにいてずっとよくみている」の2つの関わりを抽出しているが、これは本研究の【家族を保護する支援】であり、『家族のエネルギーを補い準備を整える支援方略』と同質の内容であろう。

2) 家族の問題解決力を強化する支援方略

本研究の結果では、病気の家族員を内包した家族に、問題状況に対して【家族の現実認識を促す支援】を、解決に向けて【家族の実行を促す支援】を行い、『家族の問題解決力を強化する支援方略』を活用していた。問題解決は認知-感情-行動プロセスであるが、この方略は認知-行動面を支える方略であり、家族の認知と行動へ働きかけ、問題解決力を強化する支援であった。

このような結果は、家族の強み(Family Strengths)に関する研究のなかでも、状況を捉える力、問題に対応する力、問題に向かう気持ちを培う力として報告⁹⁾されている。松崎¹¹⁾や高杉¹²⁾は、問題解決の支援では「実現可能性」が大切であるとしている。さまざまな困難を抱える家族に対する支援として、「現実的」「表面的」「具体的」なことから始めるのが安全であり、「現実的な支援」は、具体的な行動に向かう可能性をもってしていると指摘している。また、具体的な課題に対して【家族に問題解決にチャレンジさせる支援】を行い、家族の実現可能性を高めていた。

家族エンパワーメントモデルや家族生活力量モデルでも、「認知能力」「現実を認識し検討していく力」「判断能力」「問題解決のための行動力」などがあげ

られており、本研究でもそれらの側面に関する支援方略が抽出されたことになろう。

3) 家族外の資源を導入する支援方略

本研究において、看護者は、【家族に人とモノをつなぐ支援】を行い、家族の内外の資源を導引して問題解決に取り組んでいる家族を支援していることが判明した。例えばFriedmanは家族の対処方略のひとつとして、外的資源(情報、物品、サービス、サポート)を取り入れることの重要性を指摘¹²⁾している。家族が自らの家族生活を維持し直面する問題に取り組んでいくことができるように、家族内部・外部の資源を有効に活用していくことを支援していたと言えよう。家族と周囲の人々との関係性を調整することで、お互いの間にプラスの相互作用を作り出し、家族の問題解決力を継続的に育成していくことが重要であると考えられる。

鈴木らは、個から全体へ、また逆に家族全体から個へと自由自在にその視点を変化させる柔軟性を持ちながら、支援していかなければならないと述べている⁹⁾。本研究において、看護者は、例えば体力的に介護力に不安を抱える家族や緊急時の対応に不安を抱える家族など、個々の家族員や家族全体の両者の視点からニーズを捉え、ケア体制を調整し、構築しており、そのような関わりは、家族が安心して問題解決に向かっていくことができる一助になっていると言えよう。

松崎は、「治療へ向けてのさまざまな問題を解決する場合、問題ごとに解決や工夫があるが、その大前提としては、医療スタッフとの関係が良好で安定していることが必要となってくる。良好で安定した関係が築かれていると、課題も見つけやすく、解決への行動も実行に移されやすい」と述べている¹⁰⁾。このように、問題解決に取り組んでいる家族を支援する際には、家族とインフォーマルな人々との関係、医療者を含むフォーマルな人々との関係の調整も大きく影響していると考えられる。

VII. 本研究の限界と課題

引用・参考文献

本研究では、問題解決に取り組んでいる家族に対する支援として、看護師は、【家族を保護する支援】【家族の絆を強化する支援】【家族の現実認識を促す支援】【家族に問題解決にチャレンジさせる支援】【家族の実行を促す支援】【家族に人とモノをつなぐ支援】の6つの支援と『家族のエネルギーを補い準備を整える支援方略』『家族の問題解決力を強化する支援方略』、そして『家族外の資源を導入する支援方略』の3つの支援方略を抽出することができた。

しかしながら、本研究成果は11名の看護師からのデータ分析であることや、看護師からのみの捉えであるが故に、一般化することには限界がある。

〔受付 '09.05.01〕
〔採用 '10.03.28〕

- 1) Thomas J. Zurilla, 丸山 晋監訳, 中田洋二郎, 椎谷淳二, 杉山圭子訳: 問題解決療法, 金剛出版, 東京, 1995
- 2) 國岡照子, 青木康子, 真部昌子, 他: 問題解決過程における婦長の意思決定, 川崎市立看護短期大学紀要, 5(1): 107-112, 2000
- 3) 野嶋佐由美, 中野綾美: 家族エンパワーメントをもたらす看護実践, へるす出版, 東京, 2005
- 4) 家族ケア研究会, 家族生活力量モデル, 医学書院, 東京, 2002
- 5) 鈴木和子, 渡辺裕子: 家族看護学 理論と実践 第3版, 日本看護協会出版会, 東京, 2006
- 6) 風間仁美: 授乳に関する母親の問題解決行動を促すための関わりに関する研究, 母性衛生, 50(2): 373-380, 2009
- 7) ロバート・R・カーカフ, 国分康孝監修: ヘルピングの心理学, 日本産業カウンセラー協会, 236, 講談社, 東京, 1992
- 8) 小林奈美: グループワークで学ぶ家族看護論, 5-49, 医歯薬出版, 東京, 2006
- 9) 森下幸子: 家族の強み (Family Strengths) を支援する看護, 家族看護, 05(1): 37-44, 2007
- 10) 松崎くみ子: 家族へのカウンセリング, 小児看護, 27(9): 1213-1217, 2004
- 11) 高杉尚孝: 問題解決のセオリー, 116, 日本経済新聞社, 東京, 2006
- 12) Marilyn M. Friedman, 野嶋佐由美監訳: 家族看護学 理論とアセスメント, 271-273, へるす出版, 東京, 2000

Nursing Intervention to Support the Families to Solve Problems

Rie Hosikawa¹⁾ Kazuko Nagato²⁾ Sayumi Nojima²⁾

1) Kochi Medical School Hospital

2) Kochi Womens University

Key words: Family nursing, Problem solving, Nursing intervention

The purpose of this study was to clarify nursing interventions to support families to solve problems. Data were collected by semi-structured interviews from 11 expert nurses who were interested in family nursing. By qualitative descriptive analysis 6 of nursing interventions were performed.

The result of data analysis were clarified 6 nursing interventions for the families solving the problems such as "support the families by protecting them", "support the families to enforce the bond", "support the families to promote reality perspective", "support the families to challenge problem solving", "support the families to performance" and "support the families to utilize the resource".

These results suggested, nurses used three strategies of nursing interventions to support families solving problems such as "preparation by enhancing the abilities of families", "enhancing the families ability of problem-solving" and "introducing the outside resource of families".